

「進路目標をもち、計画的に学習する力」をつけよう

この頃の育ちは

思春期に入り、心と体の成長が著しくなります。また、友人の影響を受けやすく、他人から見た自分を過度に意識することがあります。不安や悩みをもちやすくなりますので、家庭ではより会話を大切に子ども様子を見守りましょう。

また、義務教育を終え、進路選択を行う大きな節目を迎えます。目標をもって学習に打ち込み、進路実現ができるように家庭で話し合う機会を多くもちましょう。



こんな学習をしています

国語

- 日常生活や社会生活にかかわる、話す・聞く・話し合う・伝え合う能力や、構成を考えて的確にわかりやすく書く能力、また読書を通してものの見方や考え方、生活に役立てようとする能力を育てます。
- そのために・・・ 説明文、日本や外国の文学、詩歌、古典、随筆、文法などを学習します。

社会

- 我が国の国土や世界の諸地域の人々のくらしや産業、地理的な特色を理解します。また、歴史の大きな流れ、伝統や文化その時代の特色を理解するとともに諸外国との歴史的なかわりを通して我が国に対する愛情や国際理解・国際協調の精神を養います。
- そのために・・・ 日本の地理的特徴や産業・貿易、地図の見方、世界の国々、日本の歴史・文化・政治・経済、世界の国々とのかわり、国際社会などを学習します。

数学

- 数量や図形などに関して、数学的活動を通して計算やその説明がきちんとできるなどの基礎的な理解を深めたり、事象を数学的（論理的）に考えたりして、表現・活用できる能力を育てます。また、数学のよさを感じとり、生活や学習に活かそうとする態度を養います。
- そのために・・・ 正負の数を含んだ四則の計算、文字式、方程式、比例・反比例、関数、平面図形・空間図形やデータの活用などを学習します。

理科

- 自然の事物・現象について、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育てます。
- そのために・・・ 身のまわりの現象（光・音・力など）、物質の姿や性質、電流、化学変化と原子・分子、植物と動物の世界、大地のつくり、生物の体のつくり、気象とその変化、宇宙、自然と人間などを学習します。

英語

- 英語は多くの国で共通語として使われており、これからの国際社会で生きていく子どもたちにとって、相手と意思疎通を図ったりその国の文化を理解したりする手段の一つとして、大切な「道具」となります。その「道具」を使いこなせるようになることが英語学習の大きな目標です。
- そのために・・・ 「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能をバランスよく学習し、基礎力を高めることでコミュニケーション能力の基礎を養い、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てます。
- 具体的にはスキット（対話）やプレゼンテーション（発表）などの活動を通じた「話すこと」「聞くこと」、物語や対話文、説明文を読み取ったりその感想を書いたりする活動を通じた「読むこと」「書くこと」などの学習をします。

家庭で学習するときは

- 毎日、ほぼ「決まった時間」に、「決まった場所」で、「ある程度まとまった時間（できれば大体同じ長さ）」、学習をするように心がけましょう。
- 学習用具は決まった場所にまとめて置いておく、「整理整頓」を心がけましょう。
- 中学校の学習は基本「復習」中心に進めましょう。特に苦手な教科は、「その日の授業をその日のうちに」復習することが大切です。得意な（好きな、興味関心のある）教科は予習をすると更に力がつきます。
- 中学生になると部活動が始まり、帰宅時間も遅くなります。また、慣れるまでは体力的にも夜遅く勉強するのは難しくなると思われます。何時までに学習を終えるかなど、学習目標や計画を立てて学習にとりかかるといっていきましょう。時間の見通しを立てることで、学習に対する集中力もついてきます。
- 将来の職業や志望校など、進路について家族で話し合う機会をもつようにしましょう。保護者は子どもの応援団となり、子どもの夢や希望に耳を傾け、励まし、その実現に向けて一緒に頑張る姿勢をもちたいものです。



こんな学習方法で取り組むよう指導しましょう

中学校 1・2 年生

国語

- 教科書を繰り返し音読しましょう。声に出して読むことはとても効果的な学習方法です。
- 新しい漢字や読めない漢字、意味のわからない語句は辞書を使って調べましょう。
- 授業で使ったプリントやノートを整理し、授業を振り返りましょう。
- その日に学習した漢字、語句などを確認し、繰り返し書いて覚えましょう。

社会

- 教科書をよく読み、疑問点やわからない語句を確認しましょう。
- 重要語句や地図上の位置などをチェックしたり、ノートに書いたりして覚えましょう。
- 授業で使ったプリントやノートを整理し、授業を振り返りましょう。

数学

- 教科書の例題や練習問題などを自分でやってみて、できないところやわからないところを確認しましょう。(できないからとすぐにあきらめたりせずに、じっくり考えてみるのが大切です)
- 授業で使ったプリントやノートを整理し、授業を振り返りましょう。
- 授業で学習した問題をもう一度解いてみましょう。(一人で解ければ良かった証拠)
- 間違えた問題を繰り返しできるまで練習しましょう。

理科

- 授業で使ったプリントやノートを整理し、授業を振り返りましょう。
- 学校で学習したことに工夫(図、絵など)を加えてノートにまとめましょう。
- 観察・実験の器具や薬品名、注意することをしっかり覚えましょう。
- 学習した内容の問題をワークなどで解きましょう。間違えた問題を繰り返し練習し、覚えましょう。

英語

- 教科書の音読を大切にしましょう。その際、分からない単語は確認しましょう。
- 新しい単語や表現の意味は、先生の指示通りにきちんと調べてノートにまとめましょう。
- 授業で使ったプリントやノートを整理して、その日の授業を振り返りましょう。
- その日に学習した単語や例文などを音読し、ノートに覚えるまで繰り返し練習しましょう。

中学校 3 年生

普段の家庭学習

- その日の授業のポイントを教科書やノートを見て、家庭学習ノートにまとめましょう。
- わからなかったところや間違えたところをしっかりと復習しましょう。
- 国語の漢字、英単語や文型、数学の公式・基礎計算は、繰り返し書いて覚えましょう。
- 社会の重要な語句や理科の用語を家庭学習ノートにまとめ、書いて覚えましょう。



夏休みまでの家庭学習

夏休みまでは、1・2年生の総復習を通して不得意なところを克服し、各教科の基礎を固めましょう。

国語

文法のまとめ、詩歌の表現技法、古典の言葉を、繰り返し書いて覚えましょう。長文読解力をつけるため、同じ文章を繰り返し読みましょう。

社会

教科書をよく読んで内容をノートにまとめましょう。基本問題練習に繰り返し取り組みましょう。

数学

基本的な内容をノートにまとめ、例題を自分でやってみましょう。基本問題練習に繰り返し取り組みましょう。

理科

教科書をよく読んでオリジナルの分かりやすいノートにまとめ直しましょう。基本問題練習に繰り返し取り組みましょう。

英語

3年間で学習した単語を少しずつ復習して、「①意味が分かる」「②正確に書ける」という2段階で完璧に覚えるように家庭学習などで取り組みましょう。教科書の本文や例文の音読を大切にしましょう。文法の練習問題に繰り返し取り組みましょう。

冬休みまでの家庭学習

2学期から冬休みまでの学習は、練習問題を中心に学習を進め、応用力、実践力をつけていきましょう。不得意分野では基礎問題に取り組みましょう。

国語

練習問題に取り組みましょう。特に長文読解の練習に取り組みましょう。

社会

基礎内容を固めて、練習問題に取り組みましょう。記述問題にも取り組みましょう。

数学

自分のレベルに合った練習問題に取り組みましょう。一度間違えた問題はしばらくしてからもう一度やってみましょう。学習した内容と日常生活とのつながりを調べてみましょう。

理科

基礎問題練習に取り組み、各分野の基礎を固めましょう。記述問題や応用問題にも取り組みましょう。

英語

長文読解の問題(総合問題)を解くために、3年間で学習した単語や連語の総復習をしましょう。また文法問題の復習にも取り組みましょう。この時期の音読は忘れられがちですが基礎力が落ちないようにするためには実はとても大切な学習方法です。



学力の向上と、生涯を通じて健康な生活を送る基礎を培うために
子ども自身が生活習慣を確立できるよう支えよう

中学生になると学習の難易度が高くなる上、部活動や友人関係など行動範囲が広がることから、生活リズムを見直し、時間を有効に使うことが大切になります。また、心身の成長も著しいため、食事や睡眠など望ましい生活習慣に心がけ、子ども自身が健康管理できるように導きましょう。

☆生活・健康に関すること

家庭での早寝・早起きのルールをつくり、規則正しい生活リズムを身につけさせましょう。

テレビやゲームは、家庭で視聴時間などのルールをつくりましょう。子どもたち自身がルールを決めることで、自主的に守る意識が生まれます。

あいさつや礼儀作法などを通して、社会生活上のルールやモラルの意義について考えさせ、社会の一員としての自覚をもたせましょう。

家族の一員として積極的に手伝いに取り組みせましょう。家庭での役割を果たすことの大切さに気づかせることで、家族への感謝の気持ちも生まれます。

子どもたちへの関わり方

この時期の子どもたちは自我が目覚めるとともに、独立や自立の欲求が高まる時期でもあります。普段から親子で話をする機会をもち、子どもたちが今、どんなことを考えているのか、じっくりと耳を傾けてあげてください。

異性への関心の高まりや性衝動など、異性に対する心理的な変化が生じる時期です。子どもたちの変化を見逃さないよう、子どもたちと向き合っていくことが大切です。

タバコや酒、大人向けの雑誌などは、子どもの手の届く場所に置かないようにしましょう。

身体的・精神的に変化の激しい時期であることを考え、ストレスへの対処や自己管理について、親子で話し合ってください。

学校生活、部活動などで忙しい時期です。家での時間の使い方を話し合い、家庭学習や睡眠の時間の確保など、上手な時間の使い方を考えさせましょう。

☆食に関すること

規則正しく栄養バランスのとれた食事は、心身の成長の基本となります。特に朝食は、一日の身体リズムを整えます。

子どもたちへの関わり方

健康の保持増進には、栄養バランスのとれた食事とともに、適度な運動、休養、睡眠が大切です。この時期の子どもたちは、心身の成長が著しい時期になります。家族一緒に食事を大切にし、自分たちの食に関心をもたせていきましょう。

食品の品質の良否を見分け、その栄養素や働きを考え、適切に選択できるようにすることが必要です。

食事を大事にし、自然の恵みや食物の生産などにかかわる人々への感謝の気持ちをもたせましょう。

箸の使い方、食器の並べ方、食卓での話題の選び方など、食事のマナーを身につけさせましょう。

自分たちの住む地域の郷土食や季節行事にちなんだ伝統料理など、多様な食文化があることを伝えましょう。

☆情報に関すること

インターネットやスマートフォンなどの利用については、利用料金、利用時間など各家庭でルールをつくりましょう。

子どもたちへの関わり方

これからの時代は、スマートフォンなどの機器を上手に活用する能力が求められます。そのためには、子どもの能力・発達に見合ったネットの使い方を家庭でも考えていく必要があります。ぜひ子どもたちと話し合ってみてください。

インターネットを利用する場合は、フィルタリングサービスを利用したり、アクセス制限を設定したりするなど、トラブルを回避する工夫をしましょう。

住所を載せたり、写真を含む個人情報を載せたりすると、悪用されてトラブルに発展することもあります。個人情報は載せないことが大切です。

掲示板、ブログなどへの誹謗・中傷や、許可なく写真を転送することなどは、名誉毀損や侮辱罪で訴えられることもあります。

SNSなどで出会った人とのトラブルが増えています。簡単に相手を信用したり、直接会ったりしないよう細心の注意を払いましょう。



いろいろなジャンルの本を読んでみよう

読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、想像力を豊かなものにしていく上で重要です。しかし、中学生の段階では、「本を読むことが好き」「あまり好きではない」どちらもいて当然でしょう。保護者の方の中にも、中学生の頃はあまり読書に親しまなかったけれども、人生経験を積み社会への視野の広がりとともに、多くの情報の獲得を通して読書習慣を身につけたという方がいるのではないのでしょうか。

自分が先生や家族から本を紹介され、その本を読んでみたいと手にしたときのことを思い起こしてみてください。きっとその本は、読んだ人が心底面白^{しんそこ}いと思ったり、心動かされたりして薦めてくれたものではなかったでしょうか。

「読書は貴いものだから」「学力を高めるから」というよりも、「この本面白^{どうと}いから読んでみて」と読書の世界にいざないたいものです。

読書環境をつくりましょう

①まず1日20分テレビを消して、保護者も「何か読む時間」をつくりましょう。

1週間のうち1日でもよいと思います。テレビを消して、「何かを読む時間」、「活字に親しむ時間」をつくってみましょう。例えば新聞を読むこと、これなら無理なくできるのではないのでしょうか。

②保護者が本や新聞を読む姿をみせましょう。

仕事や趣味の本でもいいので、保護者自ら読書する姿を見せていくことも重要です。興味をひかれた新聞記事を家族で話題にするのも、活字に親しむきっかけづくりとなります。

③自分で読んで感動した本、面白^{すす}いと思った本のことを話しましょう。

保護者が本当に面白^{すす}いと思った本や、感動したところを話してみることで、是非読んでほしいものなら「この本面白^{どうと}いから読んでみて」と薦めてみてください。図書館や書店で多くの本と向かい合ったとき、子どもの選書の材料となるはずですよ。

④図書館に出向いてみましょう。

休日などを利用して図書館に出向いてみましょう。話題の本や、郷土に関する本、季節ごとに紹介している本などがあり、読書意欲が喚起されます。



読むジャンルを広げていけるように導きましょう

子どもの読書傾向は？

「読書習慣は身につけている」「本はよく読む」というお子さんの読書傾向はどうでしょうか。好きなものを読む、楽しみながらわくわくしながら読むことは大切ですが、あるジャンルに偏る傾向もあると思います。もし、恋愛小説やテレビドラマの原作本に夢中になっているのなら、時々他のジャンルの魅力を保護者から伝え、広げていくように導きたいものです。

ヤングアダルト向けの本にも良書がたくさんあります

図書館や出版業界は、小学校高学年から中・高校生を「ヤングアダルト」と分類しています。ヤングアダルト向けに書かれた作品の中にも、良書がたくさんあります。保護者の方も読んでみてください。思春期特有のもの^{もの}の見方や考え方、悩みなどを知ることで、わが子への理解を深める一助となるかもしれません。

学校で「朝読」（あさどく）

家庭で「家読」（うちどく）

学校での朝の読書を「朝読（あさどく）」といい、全国的にも広がっています。読書が心の栄養素として豊かな人間性を育てることに加え、学力にも良い影響を与えているようです。

一方で、大人が本を読む習慣は減っています。家庭で意識的に読書をすることで、会話を増やしコミュニケーションを深めることができたなら……。そんな願いが込められた活動が「家読（うちどく）」です。

例えば、

- ①家族で同じ本を読む
- ②読んだ本について話す
- ③感想ノートをつくる
- ④自分のペースで読む
- ⑤家庭文庫をつくる



など、家族で約束ごとを決め、取り組んでみましょう。

平日は、学習や部活動で忙しく、読書の時間を確保することが難しいかもしれません。土日や長期休業などを活用して、できることから始めましょう。

「二戸地区子どもの読書活動推進情報誌」から一部抜粋

Q.1

子どもが、学校や自分の話をしなくなってきました。どのように子どもに接したらよいのでしょうか。

一般的に小学校高学年から中学校・高校にかけて、子どもは徐々に親と話をすることが少なくなってきます。今までの「守ってあげる子ども」という存在から、「人格を持ち、自立しつつある個人」へと、親自身も子どもの見方を変えていかなければならない時期です。

この時期は思春期の始まりで、子どもの心身も大きく変化する時期になります。このような時期は誰にでもあることですから、むやみに動揺する必要はありません。子どもの立場に立って共感したり、考えようとしたりする姿勢が大切です。子どもが今、何に興味があるのかに関心をもち、子どもと話をする機会を積極的につくっていきましょう。自立しようとする子どもを認め、子どもの力を信じながら、その成長を見守っていきましょう。



Q.2

子どもが、学習に対してさっぱり「やる気」を出しません。どのようにしたら、「やる気」を出させることができるのでしょうか？

なかなか「やる気」の見えない子どもに対し、心配されるお家の方の気持ちはよく分かります。逆に、今、まさに勉強しようとしていたところに、「宿題はやったの？」「勉強しなさい！」と言われ、「やる気」が起きないという子どもの気持ちも理解できます。勉強は自分のためにしているわけですが、「やりなさい」と言われることで親のためにしてやっているという錯覚に陥ってしまったり、勉強そのものを放棄してしまったりすることもあります。特に中学生になるとやらされることは嫌がります。

やる気が出てこない原因は何か、子どもの声に耳を傾け、一緒に考えてみましょう。親の経験を話してみたり、必要に応じて情報を与えたりしながら、子ども自身に考えさせていきましょう。親は子どもをよく観察し、見守りながら、気長に待つことやほめて励ますことも大切です。

A.2



Q.3

子どもが部活動に悩み、勉強も手につかない状況で心配です。親としてどのように話をすればよいのでしょうか？

子どもは悩んでいることに対して、自分の気持ちを整理しようとしてできずに迷い悩んでいるのだと思います。子どもにとっては試練ですが、子どもが大人になっていくための場を与えられていると考え、子どものペースとやり方で解決させるように見守ってあげてください。

親の方から子どもに部活動について話を聞く際は、子どもの目線で耳を傾け、問い詰めたり叱ったりせず受け止めるようにしましょう。親が経験してきたことをアドバイスすることもよいでしょう。

大切なことは、子どもに結論を任せるとことです。必要があれば子どもの了解を得て、部活動顧問や担任の先生に相談してみるとよいでしょう。



Q.4

子どもに「高校は、自分の行きたいところに行く。」と言われました。親の願いも伝えたいのですが、どのように話をしたらよいのでしょうか。

将来仕事に就き、自分自身で収入を得て生活を維持していくためには、知識や技術を習得することが大切です。また、変化が激しいこの時代は、新しい知識や技術・考え方を身につけていく必要があります。

高校進学については、本人の意志を大切にしながら、普段から進路情報をもとに親子で話し合いをする機会をもっておくことが大切です。その際、親の考えや家庭状況について、しっかりと話をすることが必要ですが、結論は本人に出させるようにします。自分の進路選択に対して、責任をもたせることもこれからは大切なことです。



Q.5

問題が起きたときに、なかなかはっきりと注意することができません。どのように対処していったらよいのでしょうか。

この時期の子どもたちは、親と話をすることを億劫おっくうがったり、聞かれたことに対しても一言・二言しか返さなかったりすることが多くなってきます。大人として扱ってほしい反面、自分のことを見てもらいたい、分かってもらいたいという面もあります。子どもたちが思っている以上に、心はまだまだ幼いところもあります。

子どもが間違いをおかしたときは、ダメなものはダメと毅然とした態度で話しましょう。親としての思いや覚悟を子どもにしっかり伝えることが大切です。その上で、子どもに対し、なぜそのような行動をとったのか、どういう思いでやったのか、子どもの声にじっくりと耳を傾けることも必要です。子どもたちの心と正面から向き合い、お互いの思いを伝え、話し合っていくことが大切です。

A.5

